

令和3年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292700028		
法人名	社会福祉法人水鏡会		
事業所名	グループホームひだまりの里		
所在地	〒039-0814 青森県三戸郡南部町埵渡字館2番地7		
自己評価作成日	令和 3年 9月 7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭菜園を行っており、職員・入居者が一緒に畑作りから、植え、収穫を行い、収穫された野菜を日々の献立に利用し、季節感を味わいながら楽しく食事をしている。 ・年間の行事を充実させ、個別的な買い物や外出に力を入れ、日々の生活の充実に努めている。 ・看護師が常勤で配置となっているため、入居者の健康管理や異常の早期発見ができる。 ・3ユニットの行き来がしやすく、行事を大勢で楽しむことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>敷地の中に家庭菜園ができる畑や散歩できるコースもあり、自然に恵まれている。理念の実践共有のほか言葉使いにも気遣いがあり、仕事中でも目につきやすい場所に掲示し、再確認できるようにしている。コロナ禍のため、外出支援ができていないが、ドライブやユニット間の交流により、なじみの関係を継続している。終末期ケアにおいては、看護師・准看護師を配置しているので職員に安心感を与えている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎朝の申し送りで唱和し、自己を振り返り目的を再認識している。ユニット独自の理念も掲げ掲示しており、理念を意識しながら支援している。	事業所の理念及び各ユニットの言葉使い5項目の基本方針の中から期間を決めて一つ目標を掲げ毎朝唱和している。職員の目につきやすい場所へ掲示することで、日頃のケアについて再確認し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナ感染予防のため、外出や施設外の方々と交流する場がなかったが、町の広報誌や新聞など活用し地域の様子が分かるよう努めた。また、地域へは法人の広報誌を配布し情報公開に努めている。	コロナ禍に伴い、地域の交流ができない状態が続いている。その中で、町内会の清掃活動等やごみ拾いへ参加する等、地域とのつながりを継続するために、事業所内の行事へ参加を呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト職員による、認知症サポーター養成講座を行い認知症に関する知識を地域の方々に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策をしっかり行い、年6回定期的に開催し、入居者状況、行事などの報告をし意見を頂いた。その内容は真摯に受け止めサービスの向上へつなげている。	昨年度は書面での開催だったが、今年度は奇数月に開催している。市町村の指導で会議のひな形があり、入居者及び家族、町内会長、地域ボランティア認知症サポーター、地域包括支援センター事業所が参加しサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険担当者と電話やメールで連絡・相談をしたりし、解決に向けた話し合いやアドバイスをもらうことで、サービスの質の向上を図っている。	市町村とのやり取りが多く、担当者と日頃から電話やメールで連絡・相談し協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、全職員が理解できるようにしている。また、拘束につながる可能性が少しでもあれば環境や背景を検討し、身体拘束にならぬよう予測した取り組みを実施している。	オンライン開催の研修会に参加している。法人全体で委員会を設置し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事業所内では、スピーチロックに重点を置いて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、全職員で学んでいる。虐待に繋がる危険性がある場合は早期に対応策を講じ、周知徹底している。スピーチロックに関し全職員で気を付けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施し、全職員が制度について学んでいる。必要な方には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、不明点がないか確認しながら説明し了承を得ている。退居先には、必要な情報提供を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人や家族から意見や要望を聴取したり、ケアに反映している。日々のコミュニケーションから本人の思いを汲み取るようにしている。	玄関に意見箱を設置し投稿しやすいようにしている。毎月「ひだまり便り」を送って、お便りをみて様子等気になる家族より連絡があれば、詳細を伝えている。資料に内容や活動等について、意見を頂き日々の活動に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングや勉強会で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。日常においてもその都度意見を聞き、職員における環境をよくしようとしている。	毎月の職員会議、リーダー会議、全体会議という流れで職員の意見・要望等を聞く機会を設けている。日常的においてもその都度、意見を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の努力・勤務態度・実績などを把握し、職員の意欲向上につながる環境作りに努めている。また、子育て世代を優遇した勤務体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップのための法人内の研修参加を進めている他、新たな資格取得のための時間の確保、費用を負担する制度がある。悩んでいる職員とその都度対話し業務遂行のアドバイスなど行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のネットワーク会議に参加し、情報交換や親睦会・相互訪問を行い、サービスの質の向上に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談して聴取し、相談と説明を行っている。開始前には関係者や家族とのやりとりを十分に行い信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族の不安や大変な思いなどを傾聴している。契約時にも今後の事も含め、相談、要望を聞き支援につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時、家族と本人の思い、要望に対し、課題を見極めたうえで説明。今後予測される状態を考慮し、他のサービスについてもアドバイスを含め説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に食事づくりや本人の出来る事を一緒に行い、入居者から教えて頂きながら相互に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会や電話・毎月のお便り等で入居者の様子を伝えている。入居者の思いを一緒に考え、アドバイスを頂き協力していただく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防のため外出し地域の方々と交流することが出来ない状況だったが、他ユニットにいる同郷の入居者と関われる様支援している。	コロナ禍のため、外出して交流することはできないが、3ユニットあるため、ユニット間で交流することで馴染みの関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日課以外でも手伝いや役割を通じて、自然と利用者同士の関わりが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係が途切れない様に、契約終了時には今後もいつでも相談できることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族から情報収集することによって、出来るだけ一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握するようにしている。意思疎通困難な方は日々の言動や表情、行動から思いをくみ取るようにしている。	本人・家族へ面接し、情報収集を行い、希望・意向の把握に努めると共に、記録に残し共有している。困難な場合は、行動パターンを確認し本人本位の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス契約時や普段の生活の中で、生活歴を家族と本人から聴取し、その人らしい生活が継続出来るよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活を記録し、バイタルサイン・食事・排泄・入浴・睡眠状況等から心身状態、本人の行動状況を把握し、職員全員が共有出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聴き、毎日の記録で生活状況を把握し作成している。毎月、ケアカンファレンスを実施しモニタリングを行いプランを見直している。	毎月カンファレンスを行い、その都度モニタリングを行っている。各ユニットの担当者がアセスメントを行い、原案をミーティングで話し合い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、情報を共有してケアや介護計画の見直しに活用している。また、3ユニット間で共有が必要な内容は、毎月のミーティングにて情報発信し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対策をしつつ、希望に沿った施設内での行事を行っている。コロナ感染前は、個別の買い物や外出にも応じられるよう支援体制を整えていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染対策前は介護予防教室などを活用し地域の方々と情報交換を行い、入居者の生活に活かしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のほか、入居者や家族が希望する医療機関を受診出来る支援を行っている。受診結果は家族に報告し、情報を共有している。	本人・家族が希望する医療機関を受診・継続している。体調不良時は、昼夜問わず看護師が訪問診療の医師へ確認し、指示を受けている。本人が適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、報告・相談する事で日常的に適切な健康管理が行われており、急変時は早期に病院受診に繋げることが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、病院の地域連携室と連絡を取り、早期退院に向けて協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約の際に、重度化した場合の対応・看取りに関する対応を書類に沿って説明し、納得のうえ了承している。また、重度化や終末期の状態になった際は、話し合いの場を設けて十分に本人・家族へ説明し、方向性を協議している。	重度化や終末期に向けたケアについて入居時に説明し契約している。身体状況の変化に伴い、その都度家族へ確認している。3ユニットあるので、一人の職員が抱え込まないように医師や各ユニット担当者・看護師等地域の関係者と共にチームでの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の中に応急手当普及員の資格を持つ者がおり、定期的に応急手当の勉強会を開催している。また、AED講習等に参加し訓練する機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼夜を想定し避難訓練を実施している。発電機を動かし停電を想定した訓練も行い、非常食等の備蓄も完備している。緊急通報装置で業者が駆けつけるシステムを備えている。	消防署職員の立ち合いの訓練が年2回開催されるほか毎月、夜間、日中、水害、火災、地震、停電訓練等を行っている。コロナ禍のため、町内の方の参加はない。非常食を3日分備蓄して停電訓練のときに食べている。緊急通報装置で警備会社がかかる体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを侵害しない対応をするよう努めているが、時として不適切な言動となる事があり、改善必要である。	人格の尊重やプライバシーの確保のため、事業所独自の言葉使いの基本方針が5項目あり、スピーチロックに気を付けている。一人で過ごせる空間を作り、一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	口頭での意思表示が困難な方でも自分で選択・決定出来るような対応をしている。また、日々の関わりの中で本人からの要望などを把握出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、入居者の訴えを尊重できるよう支援をしている。やむを得ず職員のペースに合わせて支援する場合は事情を説明し、了承を得てから支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に一度の訪問理容を利用している。盆、正月や行事では、化粧したりおしゃれな服を着たりし楽しめるよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事を作ったり配膳・片づけも行っている。入居者が食べたい物があれば出来る限り対応し、楽しく食事が出来るよう努めている。	メニュー表がなく、毎日冷蔵庫の中をみて入居者と相談しながら食事の準備をしている。味付けが合わない時は、食事中に会話の中で確認している。入居者にも、職員と一緒に準備や食器洗い、片付け等を手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を毎回チェックし把握している。また摂取状況に問題ある場合は看護とも相談のうえ、食事形態など一人ひとりに合わせて工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が声掛けまたは介助し個別に歯磨きや義歯の洗浄を行っている。口腔ケアの際、口腔状態の観察も行っている。歯科医から指導頂いた口腔ケアの知識・技術を活用できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄出来るよう支援している。個々の排泄パターンや習慣を探り自立に向けた支援を行い、失禁、オムツ使用を極力減らすよう努めている。	要介護5の方もトイレ誘導を行い、トイレで排泄する支援を行っている。夜間オムツを利用している人もいるが、日中トイレを利用することで排泄の失敗やおむつ使用を減らし排泄パターンを活かす支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、繊維が多い食材や水分・乳酸菌の摂取、運動・腹部マッサージ等、入居者個々に合った便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴曜日を定めるなどの一定の日課はあるが、希望があれば、出来る限り希望の日時に入浴出来るよう支援している。また、拒否時は無理強いせず、時間を置いたり、翌日にする等の支援をしている。	一般浴は週4回午前中に、特浴は週1回行っている。夕方に入浴を希望の方もおり、対応している。徐々に介護度が高くなるので、職員の負担が重くなるため、特浴・中間浴を設置し、個々に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課を決めて一日のリズムを整えるようにしている。眠れない場合は身体を温めたり気持ちが落ち着くよう支援している。また、本人の体調に応じて自由に休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用を明記したものをカルテとファイルに入れて、服薬時や症状特変時などすぐに確認できるようにしている。変化があった時は、すぐに看護師に報告し指示をもらうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴を踏まえ、今出来る事・したい事は何かを考え、掃除・調理・裁縫・畑仕事など個々に応じた役割を持ってもらっている。余暇では、アクティビティ等で気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ感染予防のため、外出する機会がなかったが、天気の良い日は荘外を散歩したり日光浴で気分転換が図れるよう努めた。	コロナ禍のため、外出を制限している代わりに、車から降りないドライブを行ったり、天気の良い日は、散歩したり、畑作業をするなど、気分転換を図れる支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭管理能力に合わせて、希望者には必要に応じてお金が使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あればいつでも電話をしたり手紙を出している。出来ない部分は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	所々にソファやイスを置くことで気軽に休んだり、他者との会話を楽しめる環境を作っている。また殺伐とした環境ではなく温かみのある空間づくりに努めている。	季節の花をホールに飾り付けることで季節感を採り入れている。入居者と一緒に作ったり季節にあった飾りつけを行うことや、共有スペースに気軽に利用できるようソファや椅子を置くことで、居心地よい空間作りを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が話を出来るようなテーブル席の配置やプライベート空間など、環境作りに気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、自宅で使い慣れた品を持ち込んで頂くよう勧めている。本人が生活しやすい家具を配置し安全に心地良く暮らせるよう工夫している。	本人・家族と相談し、備え付けのタンス・ベッドや持参された使い慣れたものやテレビ台・衣装ケースを、動線を考えて配置し、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じて、ひとりのできる事が継続できる様、案内表示の掲示や、必要物品を使いやすいように設置する等し、環境を整えて支援している。		